

北園
としみつ

Kitazono Toshimitsu

です



市民のみなさま、いつも変わらない暖かいご支援をいただきまして、心より感謝申し上げます。

12月議会には、競馬場跡地への「道の駅あらお（仮称）」と「保健・福祉・子育て支援施設（仮称）」について、PFIという建設から運営などの全てを事業者が担う方式を進めるために、荒尾市が負担すべき補正予算が提案されました。また、「道の駅」建設の見直しを求める請願書が提出され、私は紹介議員になりました。一般質問では、①カキ養殖への支援策、②荒尾郷土資料館の設立について質問しました。

荒尾市ウェルネス拠点(仮称)整備運営事業に 荒尾市が48億6624万円を負担

「道の駅」建設費等：12億9000万円、維持管理費：毎年6000万円

「保健・福祉・子育て支援施設」々：15億5000万円、々：3300万円

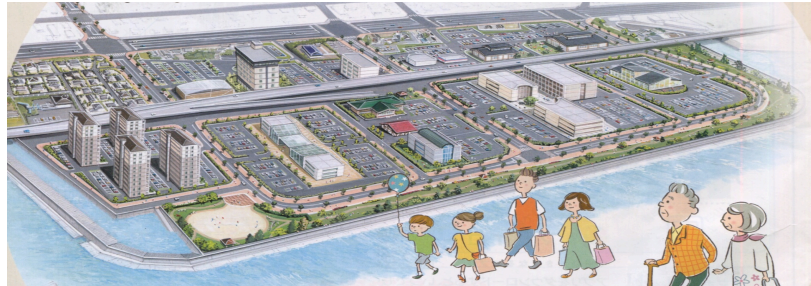


詳細な内訳等まったく示されず
私はこの議案に反対しました
議会に提出された予算説明資料は、1枚のみ
(右図)。これでは何も判断できません。私は議
会軽視だと批判しました。

12月議会では、競馬場跡地に「道の駅」と「保健・福祉・子育て支援施設」をPFI方式で同時に建設して運営していくために、荒尾市が今後16年間で負担することになる総額48億6,624万1千円の債務負担行為の補正予算について採決され、反対したのは私一人でした。50億円にも迫る大型予算にも関わらず、何と説明資料がA4版1枚だけ、内訳も付属資料も積算根拠も何も示されない中で、私が質問してようやく、執行部が施設整備費の中で「道の駅」が約12億9000万円、「保健・福祉・子育て支援施設」が約15億5000万円、「道の駅」の維持管理費が年間6000万円などと答弁する状況でした。これで議決に持ち込むという執行部に対して、私は議会軽視と批判しましたが、こんな中味が不明な資料でも、他の議員がみんな賛成してしまいました。これが、今の荒尾市議会の実態です。

「道の駅」へ年間74万人、1日2000人を想定

「道の駅」に年間74万人もの来客者が想定され、これに基づく施設整備計画になっています。建物の償却期間は39年とされています。この人数を下回るようなことになれば、財政計画の見直しが迫られてくるのではないのでしょうか。他に「温浴施設」に1日548人、商業施設に1日1万人以上などが想定されています。私は過大な建設規模になっていると思います。税金の無駄使いにならないように、現実的な来客数による見直しを求めました。



荒尾市ウェルネス拠点（仮称）整備運営事業に係る債務負担行為補足説明資料

1 VFM算定結果

単位：千円

項目		従来方式	PFI(BTO)方式 起債あり
公共の財政負担額	現在価値化前	3,673,044	3,598,848
	現在価値化後	3,407,669	3,250,504
VFM	現在価値化前	金額	74,195
		割合	2.02%
	現在価値化後	金額	157,165
		割合	4.61%

従来方式とPFI方式との比較

項目	従来方式	PFI(BTO)方式 起債あり
起債調達額	999,300	899,400
交付金	1,075,522	967,970
使用料収入	410,448	418,502
市税相当分	0	3,568
公共の収入	① 2,485,269	2,289,441
施設整備費	3,151,000	-
〃に係る消費税及び地方消費税	315,100	-
施設整備費 税込み	3,466,100	-
サービス購入料(施設整備費相当) 小計	-	3,119,479
〃に係る消費税及び地方消費税 ※一括支払分に係る消費税	-	178,569
サービス購入料(施設整備費相当) 税込み	-	3,298,048
指定管理料(開業準備費)/サービス購入料(開業準備費相当)	10,344	9,877
指定管理料/サービス購入料(維持管理・運営費相当)	1,429,401	1,416,651
〃に係る消費税及び地方消費税	142,940	141,665
指定管理料/サービス購入料(維持管理・運営費相当) 税込み	1,572,341	1,558,316
小計※予定価格ベース 税込み	5,048,785	4,866,241
その他経費	74,788	90,750
起債元本償還分	999,300	899,400
起債金利償還分	35,441	31,897
公共の支出	② 6,158,314	5,888,288
公共の財政負担額	現在価値化前(=②-①)	3,673,044
	現在価値化後	3,407,669
※端数処理により、合計が一致しない場合がある。		交付税措置後 3,057,219

南新地地区(競馬場跡地)に予定される各施設の想定来訪者数

区分	施設名	来訪者数	
		人/年	1日当たり
①	ウェルネス拠点 道の駅 保福子施設	740,000人/年	2,027人
②	宿泊施設(ホテル)	141,526人/年	388人
②	温浴施設	67,525人/年	185人
②	運動施設	200,000人/年	548人
②	アウトドア施設(ショップ)	104,000人/年	285人
②	アウトドア施設(キャンプ)	59,330人/年	163人
②	芝生広場 イベント時	8,250人/年	23人
②	通常時	270,000人/年	740人
③	馬事文化施設	171,000人/年	468人
③	商業施設	424,483人/年	1,163人
③	宿泊施設(リゾート系)	3,936,684人/年	10,785人
③	公共広場	67,525人/年	185人
③	公園	-	-
		-	-
		6,190,323人/年	16,960人

「道の駅あらお(仮称)」建設計画の見直しを求める請願が不採択となりました！

賛成は、私一人でした！

2300名を超える市民の皆さんから賛同署名が寄せられましたが、私以外の議員は全員が反対。

この請願は、現在荒尾市が進めている「道の駅あらお(仮称)」建設計画について、①拙速な建設計画を強行せず、立ち止まって、市民の理解と納得を得て進めること。②「道の駅」を中核とした施設などの複合案について、住民説明会を開催し、市民への説明を徹底すること。③市民の声を生かして、価値ある施設と思えるように現在の計画を見直すこと。の3点が請願事項となっており、たくさんの市民から、賛同署名が寄せられています。執行部や議会が市民の声に耳を傾けるのは、当然のことであり、私はこの請願の紹介議員になり賛成しましたが、他の議員は全員反対するという結果になりました。

請願書に「事実と異なる点がある」と決めつけ署名に取り組んだ市民を中傷する発言

一般質問や討論の中で、請願書の要旨が「事実と異なる点がある」と決めつけ、署名に取り組んだ方々を中傷するような発言がありました。署名の要旨には、会計検査院によるPFI事業についての指摘など、事実に基づく事項が紹介されています。



会計検査院による「国が実施するPFI事業について」

<https://report.jbaudit.go.jp/org/r01/ZUIJI12/2020-r02-Z2014-0.htm>



熊本博物館には、荒尾市の貝塚から出土された縄文時代後期末につくられた「岩偶」が展示されています。1958年の国道改良工事で、爆破された排土中から発見されたもので、当時の九州考古学会で注目を集めたのが、この岩偶です。顔面の幅は11.8cm、厚み4.8cm、「顔面の眉・目・鼻・口の造作はきわめて明瞭で、眉は下向の弧を横に二つ連ね、あたかもカモメが飛ぶような凹線をつけ、その上に細い刻線を毛羽状に引いて眉としており、全国に数多い縄文時代の人物像の顔面表現で、最もリアルな眉毛といえる。石という素材にこれだけ豊かな表現を生みだした境崎縄文人の美的感覚には驚かされるほどである。」と評価されています。荒尾市には展示する資料館などがまったくないために、遠い熊本市に所蔵されています。

ぜひ、荒尾に資料館をつくり、市民にみていただけるようになればと思います。

荒尾郷土資料館の設立について質問しました

荒尾市には、多くの遺跡や遺産がありますが、中世以前の文化遺産は市内外に余り周知されておらず、関連する資料・文献などが分散しており、利用が非常に困難な状態にあり、その存在や歴史的価値を知る術がなく、これらを一同に集め、研究・学術的検討や利用をはかることが望まれています。

このような主旨で、市民から荒尾郷土資料館設立の要望書が出されており、執行部の見解を求めました。

執行部は、シティモール2階に計画している「新図書館」に「郷土資料室」を設けると答弁。しかし、その部屋は60m²しかなく、近隣の施設と比較しても狭すぎて、私は、「博物館の水準の維持及び向上を図り、もって教育、学術及び文化の発展並びに地域の活性化に貢献するよう努めるものとする。」とされる「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」をととても満たすことができず、市民の要望には応えられないことを指摘し、近隣の自治体が設置しているような新たな施設の設立を求めました。

また、「文化財」を「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へとする国の指針に沿って、荒尾市観光振興計画に郷土資料館を位置づけるよう求めました。

近隣博物館(類似施設含む)の展示面積

荒尾市が新図書館に計画する「郷土資料室」	60m ²
山鹿市立博物館	316m ²
玉名市立歴史博物館こころピア	568m ²
合志市歴史資料館	466m ²
阿蘇火山博物館	2100m ²

090-7461-3989

お問い合わせ、生活相談など、お気軽にお電話ください